

カリフォルニアの大量乱射についてショッキングな新情報

Greatchain

2019/09/18

ここに訳す短い手紙は、John West という米「ディスカバリー研究所」の研究者から、私に個人的に宛てられたものである。ジョン・ウェスト氏は、*Darwin Day in America* の著者で、「ダーウィンは純粋な生物学者であって、社会ダーウィニズムには関係がない」と言う人々が、間違っていることを立証している。

私は、日本の頑迷な学者や、主流メディアや出版社の方々に、この手紙を読んでいただき、ジョン・ウェストの真剣な訴えをどう思われるか、「インテリジェント・デザイン」などという邪説を唱える者こそ、青年を誤らせるものだと、**本当にお考えかどうか**、お尋ねしたいものである。

親愛なる——様、

数週間まえ、カリフォルニアの Gilroy Garlic フェスティバルで、銃を乱射した男が3人を殺し、17人を負傷させたとき、人々は初めなぜだろうと不思議に思っ

やがて、この銃撃犯からのインスタグラム・ポストが発見され、ある重要な手掛かりが見つかった。この射撃犯人は、「力は正義である」という文章を読むように勧め、それは社会ダーウィニズムを宣言する、邪悪なマニフェストであることがわかった。

この宣言文の男は、「すべての人間は平等に創られている」という言葉を「地獄のような嘘」であるとして、繰り返しダーウィンを引用し、次にこう宣言した：——「妥協するのはもう終わりにしよう・・・**ダーウィンは命ずるように、最も強い者が生き、最も劣悪な者が死ぬべきだ。**」

ギルロイの射撃犯人は、おそらく精神的に病んでいたのだろう。しかしダーウィンの世界観によって狂う者は、精神病患者だけではない。著名な生物学者のジェイムズ・ワトソンは、DNA の構造を発見した役割によってノーベル賞をもらったが、今年初め、彼は、ダーウィンの進化が、アフリカ人を、白人より生物学的に劣る者にした、という狂った信念を発表して、ニュースになった。

間違えないでいただきたい。ダーウィン進化論は、現実の世界に影響を及ぼすのである。だからこそ、我々ディスカバリー研究所の者たちは、希望を提供する代替案によって、ダーウィン進化論に挑戦することに、これほどにこだわるのである。つまり、すべての人間は、我々がインテリジェント・デザインを反映しているがゆえに、価値があると考えているのである。

私たちはあなたに、我々と一緒になって若い人々を助ける手伝いを、していただきたいと願っている。

今年の夏、私たちは、**〈科学の蜂起〉 Science Uprising** という企画を試み、「インテリジェント・デザインと人間の尊厳のための科学」の証拠を、わかり易く見せる、一連のユーチューブ・ビデオを解放した。これまでの所、このシリーズは、70万プラスの視聴者を引き付け、7,000以上のコメントがそこに含まれていた：——

- 「まったく度肝をぬかれた。」
- 「これらのビデオが気に入った。」
- 「これらのビデオは実に驚くべきものだ。」
- 「こういうものを大学で教えてほしかった！」
- 「すごい！ これはよく分からない言葉のついた長い講義よりも、情報がより分かりやすくなっている。」

ディスカバリー研究所には、巨大なメガフォンはない。私たちは政府の援助を受けることができない。また既成メディアの支持も得られない。私たちは、その代わりに、あなたのような人々の援助に頼るよりほかない——**ダーウィニズムの与える絶望のビジョンに対して、ポジティブな代替案を提供してくれる人々だ。**（強調訳者）

あなたには今すぐにでも、寄付をお願いできますか？ そして 2019 年の終わりまでに、**Science Uprising** が 100 万視聴者に達するように、ご援助を願えますか？

.....

ここで何が起きているかを、よく考えていただきたい。それは学者の覇権争いなどではない。起きているのは、ID側と、反ID側、つまり政府とそれに従う勢力の、真剣勝負である。歴史始まって以来、これほど面白いことが、起こったことがあるだろうか？ これは静かな、不気味な、宇宙を分ける戦いであり、ここにはIDのことを、「箸にも棒にもかからぬ馬鹿げた説」などと言う者は、もはやいない。神側のIDに対する、反ID側は、神に反逆する者、すなわちサタン側であり、神を滅ぼして、この世で最大の権力を握ろうとする者、「ポリティカル・コレクトネス」の主、「ビッグブラザー」である。

この戦いはもちろん、神と悪魔の戦いであって、神という偏った思想と、中立的唯物科学の戦いなどでないことは、ここにきて明らかであろう。それは長い間のごまかしであった。それは覚醒の科学と、滅びの科学の違いである。学者、主流メディア、出版社の皆さまに申し上げます。もう一度これを読んで、青少年の教育に真剣に責任をもつとはどういうことかを、よく考えていただきたい。

——以上